

## 2020年3月期第2四半期 決算説明会における主な質疑応答内容の要旨

この質疑応答集は、2019年11月8日（金）に行われたアナリスト・機関投資家向け決算説明会にて、ご出席の皆様から頂いた主なご質問をカテゴリー別にまとめたものです。理解促進のため一部内容の加筆修正を行っております。

### 【国内事業について】

**Q：国内事業が好調でしたが、その背景を教えてください**

A：食品市場の競争が激化していく中で、差別化が成約への重要なポイントとなり、当社製品が採用される案件が増加傾向にあります。当社のストレングスが評価されれば、今後も持続的に商権を確保していくことができると考えています。また、外食の分野では、自社調理をアウトソースする傾向が続いています。

**Q：今期国内の計画を大きく上回っているが今後の見通しは**

A：上期はスポット要因もありましたが、現在の状況を考慮すると今期計画を達成できる見込みは十分にあると考えています。

### 【海外事業について】

**Q：アジアの業況を教えてください**

A：中国（青島有明食品有限公司）は、前期は順調でしたが、今期は米中貿易摩擦の影響もあり市場が冷えたことが影響し、昨年までの外食産業の勢いは弱まりました。また、台湾（台湾有明食品股份有限公司）は設備投資を行ったことにより、合理化が進み生産性が改善し、より顧客からの信頼度が高まりました。インドネシア（PT. Ariake Europe Indonesia）、の売上は、主に日本向けの輸出となり、今後現地売りを増加させるため、外資系・日系の食品加工メーカーとの商談を行っています。

**Q：欧州の業況を教えてください**

A：欧州は創業者がみずから陣頭指揮を執り設備や技術改善などテコ入れを行い利益が改善しました。売上については、オランダ（Henningsen Nederland B.V.）はビーフを原料とした製品が引き続き好調となり、既存顧客からの注文が増えています。ベルギー（Ariake Europe NV）も既存顧客からの受注が増加しました。

**Q：欧州事業が好調ですが中期的な見通しは**

A：今後、売上増に伴う工場の稼働率アップも期待できる一方、新たな設備投資を行っていく予定です。減価償却費等コスト増を売上増で補い、中期的な営業利益率は20%を目標としています。

**Q：海外は豚コレラなどの影響で豚肉市場が影響を受けているが、当社への影響はありますか**

A：中国で原料価格が上がっているのは、総じて海外からの原料の輸入が増えているためです。欧州工場の原料は主に鶏を扱っており、豚の影響は限定的です。

以上